# 第3回　地域未来創生スクール　現地視察

日　程　：　令和8年8月～10月

第３回は、各テーマ「しごと」「まち（空き家）」「まち（商店街）」「ひと」に分かれ、実務家講師の活動現場を訪問する現地視察を実施しました。

受講生は、講師が実際に地域課題と向き合ってきた現場を視察しながら、地域住民や事業者、行政担当者など、第一線で挑戦を続けるプレイヤーの声に直接触れました。

現地では、取組の結果だけでなく、現地の方の心情の変化や苦労した点、現在に至るまでのプロセス、地域の人々との信頼関係づくりなどをお伺いし、講義では得られない現場のリアルを体感する有意義な時間となりました。

## 【しごと班 ： 山形県　庄内町】

日　程 ： 令和８年８月20日(木)、令和８年８月21日(金)
講　師 ： 株式会社四万十ドラマ　代表取締役 畦地　履正　氏
テーマ ： 地域資源活用によるビジネス創出
　　～いなかビジネ教えちゃる～

視察では、「コシヒカリ」や「つや姫」などのお米のルーツとなった品種「亀の尾」を軸に、農家・加工業者・販売業者・行政が一体となって庄内米にこだわったものづくりを行う「かめこめプロジェクト」を中心に、地域資源を活かした取組を学びました。

まず、かめこめプロジェクトリーダーの梅木さんと副リーダーの渡部さんにプロジェクト立ち上げ当初のお話や発足による変化等をお話いただきました。次に、亀の尾資料館、熊谷神社を訪問し、「亀の尾」や生みの親である阿部亀治の歴史を学んだ後、米農家の吉祥ファームで現場を視察し、かめこめプロジェクト参加後の意識変化や取組の変化をお伺いしました。続くハナブサ醤油では、庄内米を使い商品化した醤油の実を実際に試食しました。





2日目は、発表に向けて、かめこめプロジェクトリーダーの梅木さん、副リーダー渡部さんに加え、行政の当時の担当者である荻原さん、現在の担当である冨樫さんから畦地講師の進行のもとお話をお伺いし、理解を深めていきました。「商品開発は単なる製造ではなく、販路開拓・商談・デザイン・ストーリー発信を一体化することが大切。商品を売る時は、必ず背景を語る必要があり、その答えは現場にある。」というお言葉が印象的でした。




## 【まち班(空き家)：熊本県　玉名市】

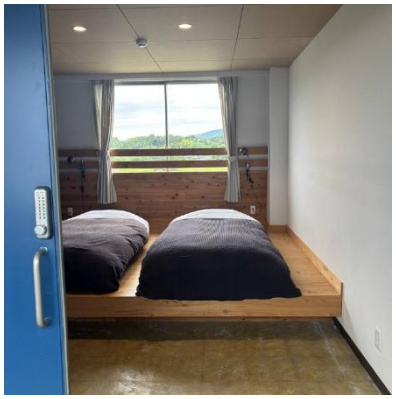
日　程　：　令和８年９月３日(木)、令和８年９月４日(金)
講　師　：　NPO 法人空き家コンシェルジュ代表理事　有江　正太　氏
テーマ　：　自治体毎の空き家対策を考える
　　～実践の中から見つける、あなたのまちの空き家対策～

まず、玉名市役所住宅課の木村さんより玉名市の歴史や地域の特性、そして国の空き家制度変遷を踏まえながら、玉名市独自の空き家対策と取組についてご説明いただきました。元々は複数課にまたがっていた課が建設部住宅課空家対策係へ1本化したお話や、空家活用チラシを「固定資産税納税通知書」に同封し、裏面を広告利用し印刷製本費を減らすお話など大変参考になりました。
その後、高瀬裏川を散策し、米蔵を改修した高瀬蔵で完成までを記録した DVD を鑑賞した後、実際に空き家倒壊除却現場や空き家群を視察しました。





続く、HIKE(整形外科をリノベーションしたホステス＆カフェ)では、佐藤さんが廃病院を活用するに至った経緯や地元住民を巻き込みながらこの場所を作り上げてった過程をお話いただいた後、ホテルや屋上を見学しました。2日目は、高瀬商店街にある新しいアイデアやビジネスを創出する拠点のタカセカラを訪問し、代表の上平さんより地域での空き家活用の方法等についてお伺いしました。「今ある空き家から使い道を考えて利用者を募集するのではなく、地域の未来から必要な事業は何かを考えて必要な場所を選ぶという逆算の考え方が必要。」とのお言葉がとても印象的でした。最後は、発表に向けて有江講師の意見を踏まえつつ意見をまとめていきました。




## 【まち班(商店街)： 宮崎県　日南市】

日　程 ： 令和８年９月17日(木)、令和８年９月18日(金)
講　師 ： 株式会社油津応援団　取締役　木藤　亮太　氏
テーマ ： 応援の連鎖がまちを変える
～日南市・油津商店街にみる新しい地方創生のかたち～

当日は、日南市のテナントミックスサポートマネージャーとして迎え入れられた木藤講師を中心に、油津商店街の再生に携わった当時の関係者からお話を伺いました。また、再生の取組に寄与した油津珈琲や fan!ABURATSU を実際に利用することで、油津商店街の再生に向けた取組について理解を深めました。

子育て支援センターことことからは、預かりだけでなくワークショップなどの多様な活動を行い、子育て世帯以外の住民や来訪者にも開かれた存在で地域の魅力発信や商店街活性化に寄与していることを学びました。
PORT 株式会社からは、油津商店街の再生の取組により、約100人規模の IT 雇用を創出し、地元で働ける環境を整えるとともに、商店街にオフィスを構えることで周辺飲食店の利用や昼食・夕食の需要を生み出し、商店街や地域経済の活性化につなげていることについて理解を深めました。
続く、油津応援団代表取締役黒田さんと日南市役所の釈迦郡さんとのトークセッションでは、油津商店街活性化に取り組む当時の話を民間と行政目線でお話いただき、まずは現場に出て地域の声を聞くことや行政が伴走支援をすることの重要性を学びました。

2日目は、株式会社ことろどの田鹿さんから、マーケティング専門官として当時の﨑田市長と木藤講師と共に油津再生に関わったお話や現在の会社経営等についてお伺いしました。
続く、PAAKDESIGN の鬼束さんは、油津商店街再生プロジェクトをきっかけに東京から U ターンし、株式会社油津応援団の社員として油津商店街建物の設計的視点で関わったことや現在の飫肥城下町での古民家宿運営についてお話をお伺いしました。
最後は発表に向けて視察での学びから付箋とボードを用いて意見を出し合い、みんなの意見を共有する時間となりました。





## 【ひと班 ： 島根県　浜田市、江津市、益田市】

日　程 ： 令和８年10月１日(木)、令和８年10月２日(金)
講　師 ： 株式会社ソトコト　代表取締役　ソトコト編集長　指出　一正　氏
テーマ ： 関係人口創出・移住
　　～私たちはローカルで幸せを見つける～

視察では、島根県西部を回り、「しまコトアカデミー」をはじめとする関係人口政策について関わりの深い現地の方からお話をお伺いし、関係人口の広げ方や自分の地元にどう結びつけるかについて学びました。

まず、島根県の山本さんに県の関係人口政策をご説明いただいた後、実際に島根県に関わる方にお会いしました。美又共存同栄ハウスの上代さん、有福商店の藤田さん、合同会社オリエンタルシティの竹内さん、GardenRestaurantFathers の岡本さん、 シマネシネマの和田さんは「しまコトアカデミー」への参加で島根のもつ可能性を知り、より島根が好きになって活動を続けています。それぞれの経緯や関わり方は大変勉強になり、「しまコトアカデミー」の影響力の大きさに驚かされました。
島根県立大学在学中の石川さんは、フィールドワークが多かったという理由でこの大学を選び、在学中に都野津の古民家をリノベーションしデジタル拠点であるつのづ BASE を完成させるまでのお話や江津市の取組についてお話いただきました。
また、「しまコトアカデミー」のメンターを務めていた浜田市の三浦市長に、メンター時代のお話や関係人口政策をお話いただき有意義な時間となりました。宿泊したマスコスホテルを開業した洪さんのお話の中では、「競争がない地方だからこそ世界基準でものが作れているかを考えている」というお言葉が印象的でした。

最後は、視察から感じた意見をホワイトボードに書き出し発表の方向性をみんなで確認しました。



